

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、23～26℃台を示し、やや高めでした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――月夜間とシケで出漁日数が少なかった。西彼地区では、マアジなどが1日1統当たり9トンの水揚げで、前週の53%（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり6トンの水揚げで、前週の29%（前年を下回った）。
- イカ釣――月夜間に出漁日数が少なかった。スルメイカは対馬東岸地区では、1日1統当たり5kgの水揚げで、前週の33%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり183kgの水揚げで、前週の2.2倍（前年を下回った）。ケンサキイカは対馬東岸地区では、1日1統当たり5kgの水揚げで、前週の11%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり18kgの水揚げで、前週の6%（前年を下回った）。
- 定置網――五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり1.5トンの水揚げ。対馬西岸地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり35kgの水揚げ。対馬東岸地区では、マアジなどが1日1統当たり108kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ヒラマサが1日1統当たり120kgの水揚げで、前週の1.4倍（前年を下回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/19～10/23の5日間）の沖合イカ釣（船凍船）は、大和堆付近で操業。

沿岸イカ釣（氷蔵船）は、海況悪く山陰沖、佐渡沖で僅か操業船あり。

鳥取県西部（沖合船）2日延10隻、総計588箱、1航海最高124箱、平均58.8箱。スルメイカを漁獲、魚体は（20～30入）。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第6-20号 今期のトビウオ漁模様・今期のトビウオ漁況予報の検証」・「第6-21号 壱岐水道・対馬東水道（対馬南・対馬南東・対馬東）の観測結果」を発表しました。

漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>